

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所	兵庫県立千種高等学校	研究グループ名	73
属・職・氏名	教頭 原田 尚昭	「千種学」教材開発研究会	

研究テーマ分類番号 (4)

(1) 研究テーマ

千種に誇りを持ち、千種を伝える力を育成する「千種学講座」の教材開発
～「千の種」となる子らを育てる、保幼小中高一貫の「ふるさと」学習～

(2) 研究経過及び具体的な取組

今年度以下のテーマに基づいて各学校や学校間連携によって「千種学講座」を実施した。

6月5日(木)「茶摘みと製茶体験」(千種中学校3年生32名)
学校農園茶畑での茶摘みから製茶体験(炒る・揉む・乾かす)を通して、千種の農家に代々伝わる豊かな茶文化を体験した。

6月12日(木)「学校周辺の文化財から千種の歴史を学ぶ」(千種中学校3年生32名)・
6月17日(火)「 〃 〃 」 「ホテルの生態」(千種高校2・3年生20名)
「河呂大森神社の農村歌舞伎舞台」や戦国時代の宇野氏にまつわる「お塚さん」に赴き、豊かな歴史文化財について学んだ。高校生はホテルの生態についての講義も受けた。

6月18日(水)「軍師官兵衛と故郷千種の里」(千種中学校3年生32名)
今年の大河ドラマ「軍師官兵衛」と宍粟との関わり、山崎長水城の歴史と千草の宇野政頼墓所や笛石山伝説等について学び、郷土を誇りに思う心を育てることが出来た。

7月下旬 「千種高校周辺の歴史文化財」(教材)作成 (11月改訂)
7月～8月(数回)「たたら製鉄学習①ー砂鉄採集作業」(千種中学校2年生30名)
秋に実施する「たたら製鉄実習」に向けて、千種川で一人1kgの砂鉄を採集した。

8月3日(日)「若杉原生林ツアーサブリーダー活動」(千種高校2年生6名)
2年生生徒会役員6名が、日本熊森協会主催の「原生林ツアー」のサブリーダーとして参加し、地元の高校生代表として都会からの参加者に植物等の解説を行った。

9月27日(土)「千種川水生生物調査」(千種高校1・2年生10名)
千種町内数か所の千種川で水生生物のサンプル収集及び状況調査を実施し、地域の環境変化や現在の状況について学び、今後地域の自然環境を如何に守るかについて考えた。

10月10日(金)「たたら製鉄学習②ー製鉄実習」(千種中学校2年生30名)
「宍粟鉄を保存する会」の方々のご指導で、千種町北部の「天児屋鉄山跡」で炉を組み、古くからの方法に則って製鉄作業を行い、地域に対する誇りを育むことができた。

10月26日(日)「千種太鼓路上公演」(千種高校2年生13名)
街のイベント「ちくさふれあいフェスタ」の中で、路上に太鼓を並べて演奏し、千種高校生の若き力を示すと共に、地域活性化の起爆剤として「千種太鼓」を披露した。

11月2日(日)「千種町保幼小中高合同ふれあい文化祭」(全園児・児童・生徒約360名)
千種町内の学校園で学ぶ子どもや生徒全てが一堂に会し、異年齢集団による大文化祭を行った。互いの良さを学び合うことによって地域に対する愛着を育むことができた。

11月2日(日)「千種の水害史について学ぶ」(千種高校1～3年生99名)
上記ふれあい文化祭の午後、防災避難訓練を実施するとともに、50年前の千種川大水害の様子や平成21年水害の状況について学び、地域に根差した防災意識の啓発を図った。

11月19日(水)「千種の植生について学ぶ」(千種中学校2年生30名)
千種町は、恵まれた自然環境の中で豊かな植生を形成している。千種の子と千種川周辺の植生について学び、郷土の自然を大切にすることを育むことができた。

12月5日(金)「しめ縄づくり体験」(千種小学校全児童・中学校全生徒209名)
千種小中の子どもたちが各地域の公民館で、お年寄りから「しめ縄作り」を学び、共に会食することで古来の年越しの文化を学び取り、地域への愛着を育むことができた。